

武蔵一宮

氷川神社略記



武蔵一宮 氷川神社社務所

埼玉県さいたま市大宮区高鼻町1-407

TEL 048-641-0137(代)

FAX 048-647-1213

<http://musashiichinomiya-hikawa.or.jp>



武蔵一宮 氷川神社御社殿

氷川神社

鎮座地・埼玉県さいたま市大宮区高鼻町
御祭神・須佐之男命 稲田姫命 大己貴命
例祭日・八月一日 社殿・銅板葺 流造 境内地・約三万坪

社殿の沿革

上代のことは詳かではありませんが造営のこと古く見えているのは治承四年源頼朝公が土肥次郎実平を奉行に命じて社殿を再建して居り、文禄五年八月には徳川氏が伊奈備前守忠次を奉行として稲生弥三郎、倉橋文藏の兩人を目代に社頭を残らず造営させ、次で寛文七年三月には阿部豊後守を奉行として社頭の整備、社殿の建立をして居ります。明治の御代には官費を以て本殿、拝殿、中門、祝詞舎、透塀等を改造し、十五年九月二日に正遷宮を行って居ります。又昭和の御代に至っては弥々神祇奉崇の道を闡明し神威神徳を顕揚し万代家国の祈願に添わん為、神域改善事業奉賛会を組織し、埼玉官民を挙げ全国特別崇敬者を加えて昭和九年神饌所の竣工を始め、表参道の改修、同十年には社務所の改築、同十二年には勅使齋館を新築し、同十五年六月三十日本殿、拝殿、幣殿、舞殿楼門等国費をもって竣成、同年七月十六日正遷宮を齎行しました。昭和四十二年には明治天皇御親祭百年大祭を執り行うべく昭和三十三年十月氷川神社明治天皇御親祭百年大記念事業奉賛会を設立、旧武蔵国一円の崇敬者各位から寄せられた至誠の御奉賛によって、昭和三十九年七月本殿、拝殿の修営工事が竣成し、三宮家を始め旧宮家からもそれぞれ幣帛料の御奉納があり、本殿遷座に当っては勅使の御差遣を賜りました。つづいて昭和四十一年、同四十二年には舞殿、祈禱殿、楼門の改修

工事、境内撰末社の新築、改築をはじめ神苑の整備などを完了、同年十月百年大祭を盛大に執り行いました。

由緒

氷川神社は社記によると今から凡そ二千有余年第五代孝昭天皇の御代三年四月未の日の御創立と伝えられます。御祭神は須佐之男命、稲田姫命、大己貴命の三柱の神で大己貴命は須佐之男命の御子に坐して国土を天照大神の御孫瓊々杵命に御譲りになられた国土経営の神であります。稲田姫命は須佐之男命の御妃で大己貴命の御母神であります。この御三神をここにお祀りされたのは国土経営民福安昌祈願の為であって大和朝廷の威光が漸次東方に及ぶにつれて、当神社の地位が益々重くなったのでありましょう。地勢上から見て氷川神社は見沼をひかえ東西南北に展開し交通の便もよく土地も肥沃で民族は弥々繁栄し今日の基をなすに至ったものと思われます。

第十二代景行天皇の御代日本武尊は当神社に御参拝東夷鎮定の祈願をなされ、成務天皇の御代には出雲族の兄多毛比命が朝命により武蔵国造となつて氷川神社を専ら奉崇し、善政を布かれてから益々神威輝き格式高く、又今から凡そ二百年前の聖武天皇の御代には武蔵一宮と定められ、醍醐天皇の御代に制定せられた延喜式神名帳には名神大社として月次新嘗案上の官幣に預り、又臨時祭にも奉幣に預る等歴朝の崇敬殊の外厚く、又武家時代になつては鎌倉、足利、北条、徳川氏等相繼いで尊仰し祭祀は厳重に行われておりました。

明治の御代に至つては明治元年明治天皇は都を東京に遷され、当社を武蔵国の鎮守勅祭の社と御定めになり左の勅書を賜わつたのであります。勅ス、神祇ヲ崇メ、祭祀ヲ重ニスルハ、皇國ノ大典ニシテ政教ノ基本ナリ。然ルニ中世以降、政道漸ク衰エテ、祀典挙ラス。遂ニ綱紀ノ不振ヲ馴致セリ。朕深ク之ヲ慨ク。方今更始ノ秋、新ニ東京ヲ置キ、親臨シテ政ヲ視将ニ先ズ祀典ヲ興シ、綱紀ヲ張り、以テ祭政一致ノ道ヲ復サントス。乃チ武蔵國大宮駅氷川神社ヲ以テ当國ノ鎮守ト爲シ、親幸シテ之ヲ祭ル。自今以後歲ゴトニ奉幣使ヲ遣シ以テ永例ト爲サン。

次で同年十月二十八日明治天皇当神社に行幸、御親ら祭儀を執り行われ更に三年十一月一日再び御親祭あらせられました。この時の御行列は非常に荘厳で京都からの御遷都と同様の御盛儀であつたといわれます。此の様に明治天皇が御親祭あらせられたのは桓武天皇平安遷都の折賀茂社をお祀りした御例によられたものといわれ、その模様を謹写した山田衛居筆の氷川神社行幸絵巻物は今も当社の社宝として大切に保存されて居ります。次で明治四年五月十四日官幣大社に列せられました。同九年奥羽御巡幸の節には米田侍従番長を御代拝として参向せられ、同十一年八月三十一日三度の行幸御参拝あらせられました。昭和九年昭和天皇の御参拝、昭和三十八年十月には今上陛下が皇太子殿下の御時、御参拝になられております。昭和四十二年十月明治天皇御親祭百年大祭が執り行われ、社殿、その他の諸建物の修復工事が完成、十月二十三日には、昭和天皇・皇后両陛下お揃いにて親しく御参拝を賜りました。昭和六十二年七月には今上陛下が皇太子殿下の御時、同妃殿下とお揃いにて御参拝になられ、平成五年五月には天皇・皇后両陛下の御参拝を賜っております。

又氷川神社名の神社は大宮を中心にして埼玉県下及び東京都下、神奈川県下に及びその数実に数百をかぞえます。今日県下だけでも百六十余社に及ぶことは御神威の高く尊きによるとは申せ武蔵国造の子孫がこの大宮の地を本拠として民族的政治的に著しい発展をしたことを物語つて居るものと考えられます。

大湯祭

大湯祭は当神社特殊神事中最も著名なもので、延宝年間の社記には既に大湯祭の文字が見えて居りますので、相当古い時代から行われて来た祭典と思われれます。大湯祭は俗に十日市・熊手市ともいわれ十二日間に亘る長い祭典です。

前斎 自 十一月三十日 至 十二月九日

毎夜境内にかり火をたき上げ祭事を行います。この火にあたると無病息災火防の御神徳にあずかれるといわれ連夜多数の参詣者でにぎわいます。

本祭

十二月十日

百取膳(ももとりぢぜん)(百味膳ともいう)といひ海川山野の種々の神饌をすべて熟饌とし奉る極めて莊重典雅な祭典を執り行います。この日御祭神の大己貴命(大國主様)と少彦名命(恵毘須様)の御影と福熊手を授与致し参詣者凡そ数十万を数え境内には縁起の露店櫛比し全国稀に見る祭典で西の市の範として広く知られて居ります。

後斎

十二月十一日

後斎を奉仕した後、饗膳式(きやうぢんしき)という古式床しい直会の儀が執り行われます。

人生儀式案内

安産祈願

妊娠五ヶ月目の戌の日に安産祈願をし、岩田帯をしめます

命名

誕生から七日目をお七夜の祝いといい、この日までに名付をいたします

初宮詣

男児は三十一日目、女児は三十二日目又は三十三日目にお宮参りをいたします

七五三祝

男女児とも三歳を髪置、男児五歳を袴着、女児七歳を帯解の祝として、十一月十五日に神社に参拝します

合格祈願

中学校、高等学校、大学とそれぞれ合格祈願を致します 又無事入学した方の在学中の御加護

学業成就

を願ひ、学業成就祈願を致します

成人祝

男女ともに満二十歳の年に成人式をして祝います

神前結婚式

千古の神域より新しい人生の門出を祝し、挙式をいたします

厄除け祈願

女子は十九歳、三十三歳、男子は二十五歳、四十二歳を厄年といい、厄除け祈願をいたします

交通安全祈願

交通安全、事故防止の為、諸車の交通安全祈願を行います



大湯祭特殊神饌 百味膳



祭儀

毎月一日には月次祭、十五日には献詠祭、国民奉祝の日にはそれぞれ祭事があります。

〃	〃	二月	一月	
祈	的	節	歳	
年	神	分	旦	
祭	事	祭	祭	
十七日	七日	節分日	一日	
〃	〃	五月	四月	三月
道	御	鎮	鎮	郷
饗	鎮	花	花	神
祭	座	祭	祭	楽
二十一日	九日	五、六、七日	十五日	
〃	〃	八月	六月	
神	例	大	粽	
幸	祭	祓	神	
祭	祭	式	事	
二日	一日	三十日	五日	
〃	〃	十二月	十一月	十月
誓	大	新	朔	抜
詔	湯	嘗	瓶	穂
祭	祭	祭	祭	神
十一日	十日	二十三日	二十一日	九日



鎮花祭

桜花の栄えるのを寿ぎ、人々の健康と安福を祈り、且又芸能奉納にゆかり深い祭典として4月5日より童女奉仕による花しづめ舞、弓道大会等があり7日には大祭が行われ参拝者は社頭を埋めます。



粽神事

萌え出ずる真菰の若芽は邪気を払うといわれ、この真菰でつくられた「ちまき」は長く保存ができ、これを食すと、無病息災、家運隆昌するといわれています。



橋上祭

神幸祭

みゆきの神事で所謂神輿渡御式であります。輿丁は旧神領の篤志者及び井垣の氏子百余名によって奉仕されます。行粧は誠に厳肅で御手洗池の橋上に神輿を奉安し祭典を行い御池を左に一周して還御致します。



大祓式

六月三十日の大祓は夏越しの祓ともいわれ、当神社では昔から神橋の中央に茅の輪をつくり、この輪をくぐって祓をするために「輪くぐり」とも呼ばれ初夏の風物詩として大きな行事の一つになっています。



例祭

畏き辺より年々勅使の御差遣があり東海舞の舞が御奉納され荘厳な祭儀が執り行われ、市内には山車、神輿が練り股賑を極めます。